

北川ダム 工事で濁流

延岡市の北川上流域

漁協 アユ産卵に影響 濁らないよう努めている

大分県
企業局

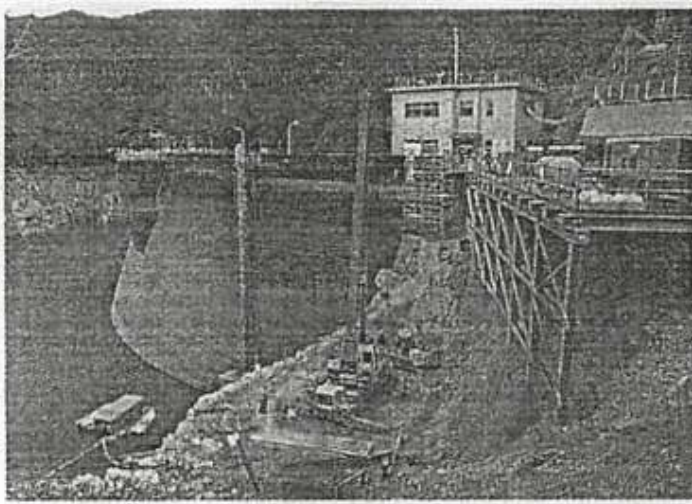
大分県佐伯市宇自の北川ダムで実施されている維持流量放流設備工事の影響で、延岡市の北川上

流域に慢性的な濁りが生じている。この時期はアユの産卵期のため、漁業関係者からは「このまま

ではふ化できないのではなか」と不安や苦情の声が出ている。

約5億500万円。工事に入る前にダムの貯水量を大幅に減らして取り掛かった。この影響でダム上流の水位も下がり、流れが泥のたまった河床を洗う形となって濁りが発生。ダムの下流10

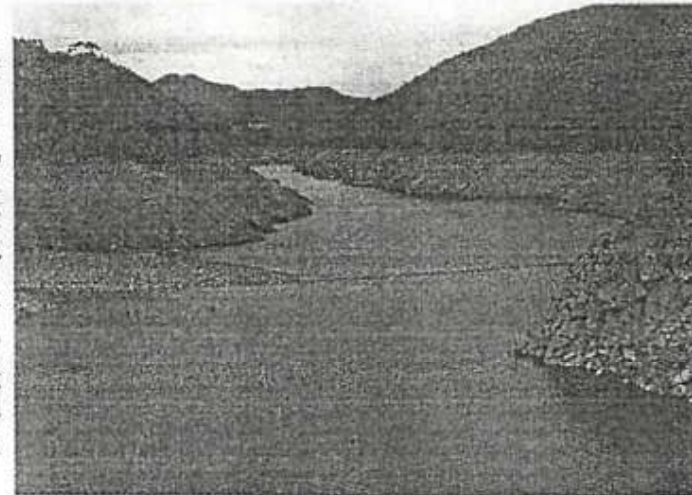
kmほどの北川町八戸地区付近まで濁りが見られる状態となっている。このため、延岡市の北



維持流量放流設備の設置工事をしている北川ダム（16日、大分県佐伯市宇自）



北川ダム直下の無水区間。発電用水は左岸側のトンネルを経由して下流の北川発電所に送られている（16日、大分県佐伯市宇自）



工事のため貯水量を減らしている北川ダム（16日、大分県佐伯市宇自）

川漁業協同組合（長瀬一巳組合長）は「この濁りによる悪影響がいろいろと予測される」と指摘し

「連鎖が絶たれる」などを懸念する。

①アユの産卵への影響②沈殿した土などによりアユの産卵場やエビ、カニ、小魚などの生殖場に必要

北川ダムを管理する大分県企業局によると、河川法の改正（平成9年5月）に伴い、環境保護の観点から水が流れない状態の無水区間を解消することが義務付けられ、昨年1月の水利権更新の際、維持流量放流設備（送水管）の整備が決まった

という。同ダムはアーチ型でダム壁に穴を開ける強度が保てないことから、整備は地下への送水管設置を決定。工事は濁水期に、貯水量を減らしながら行ったという。

北川漁協の長瀬組合長は「汚れた川は簡単にはきれいにならないし、来年以降も影響が出てくる。ダムからの水は常に流れてくるわけだから、できるだけきれいな水が流れる方策を考えてほしい」と濁水を河川環境に与える影響を直撃（しんじ）にとらえてもらわないと」と話している。

延岡市北川総合支所や地元漁協にも直接説明した。どうしても水位を下げる必要がある、ご理解いただきたい」と説明。

アユの産卵期に配慮して、今年9日からは発電用にいったんダムに流し込んでいた支流桑原川の水を直接放流。12日からはダムの放流量を毎秒10〜15tから同6tにまで抑え、貯水量を増やして、できる限り濁りが少なくなるよう努めているという。

また、泥流のためダムの下流域に泥などが河床に沈殿するという懸念に

対しては、事業期間は来年5月末までを予定しており、その後、梅雨などで川水が増えれば自然に流れると考えている」と話している。